Algorithm

pickoba

Algorithm パッケージは、 SAT_YSF_I 上で擬似コードを記述するためのパッケージです。 IAT_EX における algorithmicx パッケージ等に相当する機能を提供することを目指しています。

1. 基本的な使い方

以下を記述して Algorithm パッケージを読み込みます。

```
@require: algorithm/core
@require: algorithm/style/default
```

ここでは標準 (default) のスタイルを指定していますが、Python 風、C 風のスタイルを選択することも可能です (後述)。

実際に擬似コードの組版をしてみましょう。以下はユークリッドの互除法の記述例です。 (\bmod, \gets 等は適切に定義されていると仮定)

```
+algorithmic<
                                                  1: procedure EUCLID(a,b)
                                                  2: r \leftarrow a \mod b
  +Procedure{Euclid}{${a, b}}<
                                                     while r \neq 0 do
    +State{${r \gets a \bmod b}}
                                                         a \leftarrow b
                                                  4:
    +While{fr \neq 0}
                                                  5:
                                                         b \leftarrow r
       +State{${a \gets b}}
                                                         r \leftarrow a \mod b
       +State{${b \gets r}}
                                                      end while
       +State{${r \gets a \bmod b}}
                                                      return b
                                                  9: end procedure
    +State{\Return{${b}}}
>
```

擬似コードは +algorithmic で括り、その中で +Procedure や +State を使って記述していきます。 これらのコマンド名はおおよそ $L^{A}T_{E}X$ の algorithmicx パッケージと揃えてあります。次ページから利用可能なコマンドを紹介します。

2. 定義されている命令一覧

2.1. 基本

>

行番号がつく行

```
+State{body}
                                       1: body
 行番号がつかない行
+Statex{body}
                                       body
2.2. ループ
+For{cond}<
                                       1: for cond do
                                       2: body
   +State{body}
                                       3: end for
>
 +ForAll{something}<
                                       1: for all something do
                                       2: body
   +State{body}
                                       3: end for
>
+While{cond}<
                                       1: while cond do
                                       2: body
   +State{body}
                                       3: end while
+RepeatUntil<
                                       1: repeat
   +State{body}
                                       2: body
                                       3: until cond
>{cond}
+Loop<
                                       1: loop
                                       2: body
   +State{body}
                                       3: end loop
```

2.3. 条件分岐

else 節が存在し得るため、+If は自動では閉じられないことに注意。

2.4. Procedure / Function

関数名は自動的にスモールキャピタルになる。

2.5. コメント

コメントは挿入したい行に対応する inline-text 内に \Comment を用いて記述する。end while 等のブロックの終端行にコメントを挿入する場合は +Comment を用いる。 スタイルは +algorithmic の引数で調整可能。詳細は第5章を参照。

```
+While{cond\Comment{1st comment}}<
    +State{body\Comment{2nd comment}}
    +Comment{3rd comment}</pre>
```

2.6. その他

+Require, +Ensure には行番号がつかない。

+Require{something}

Require: something

+Ensure{something}

Ensure: something

3. コマンドの定義

Algorithm モジュール内の inline-scheme, block-scheme を利用することで独自のコマンドが定義できます。 以下では Algorithm モジュールが open されていることを仮定しています。

3.1. 一行のコマンドを定義する場合

inline-scheme: context -> bool -> inline-text -> block-boxes を使えばよいです。第二引数は行番号を付与するかどうかを示します。例えば、

```
let-block ctx +Assert it =
 inline-scheme ctx true {\keyword{assert}\ #it;}
```

と定義することで

```
+Assert{body} 1: assert body
```

のように使えます。 なお \keyword も Algorithm モジュール内で定義されているコマンドです。

3.2. ブロックを作るコマンドを定義する場合

block-scheme : context -> inline-text -> block-text -> inline-text ->

block-boxes を使えばよいです。例えば、

```
let-block ctx +Block inner =
  block-scheme ctx
  {\keyword{begin}}
  inner
  {\keyword{end}}
```

と定義することで

```
+Block< 1: begin 2: body > 3: end
```

のように使えます。なお、第二・第四引数の inline-text は空にすることで対応する行を非表示にすることが可能です。

4. レイアウトのカスタマイズ

Algorithm パッケージでは、**@require** で読み込むファイルを変更することで異なる表記 (LAT_FX の algorithmicx にならいレイアウトと呼称します) に変更することができます。

4.1. Python 風のレイアウト

読み込み時に

@require: algorithm/core
@require: algorithm/style/python

と記載することで以下の出力を得られます(コードは第1章を参照)。

1: **def** EUCLID(a,b): 2: $r \leftarrow a \mod b$ 3: **while** $r \neq 0$: 4: $a \leftarrow b$ 5: $b \leftarrow r$ 6: $r \leftarrow a \mod b$ 7: **return** b

4.2. C言語風のレイアウト

読み込み時に

@require: algorithm/core
@require: algorithm/style/c

と記載することで以下の出力を得られます。

```
1: EUCLID(a, b) {
2: r \leftarrow a \mod b;
3: while (r \neq 0) {
4: a \leftarrow b;
5: b \leftarrow r;
6: r \leftarrow a \mod b;
7: }
8: return b;
9: }
```

5. スタイルのカスタマイズ

+algorithmic に与える第一オプショナル引数のレコードによってスタイルをカスタマイズできます。 以下のデフォルト値は Algorithm.default-config として与えられています。

- font-set:fss-font-set(デフォルト値:FssFonts.default-font-set)
 - コード中で利用するフォントセット。詳細は fss パッケージを参照。
- keyword:style list(デフォルト値:[bold])
 - プログラム中のキーワード(予約語)に対するスタイルを指定。詳細は fss パッケージを参照。
- line-start:int(デフォルト値:1)
 - 行の開始番号。
- show-linenumber:bool(デフォルト値:true)
 - 行番号を表示するか。
- indent-scale:float(デフォルト値:1.)
 - フォントサイズに対するインデントサイズの比

- prefixf:context -> int -> inline-boxes(デフォルト値:default-prefixf)
 - 各行のプレフィックス(行番号表示)をカスタマイズするためのフック。
- commentf:context -> inline-text -> inline-boxes(デフォルト値:default-commentf)
 - コメントをカスタマイズするためのフック。

例えば以下のようにカスタマイズできます。

```
+algorithmic?:(|
   Algorithm.default-config with
    keyword = [bold; italic];
   line-start = 10;
   indent-scale = 2.;
   commentf = fun ctx it ->
        (inline-skip 15pt ++ read-inline ctx {// #it;});
|)<
   +State{${s \setminus eftarrow 0} \setminus comment{comment}}
   +For{${i \setminus eftarrow 1, n}}<
        +State{${s \setminus eftarrow s + i}}
   >
```

```
\begin{array}{ll} \text{10: } s \leftarrow 0 & \textit{// comment} \\ \text{11: } \textit{for } i \leftarrow 1, n \textit{ do} \\ \text{12: } s \leftarrow s + i \\ \text{13: } \textit{end for} \end{array}
```